

## 各種委員会活動実績の推移から見た北見工業大学の地域貢献 ～北見市と北見工業大学の関係解析～

○内島 典子（北見工業大学 社会連携推進センター）

### 1. はじめに

文部科学省は、平成28年度から始まる国立大学法人等の第3期中期目標・中期計画の策定に向け、大学改革加速期間中において大学の各種機能強化を目指すなかで、大学教育等のあり方を検討し、平成24年度から25年度にかけて「ミッションの再定義」、平成25年11月には「国立大学改革プラン」を提示した<sup>1)2)</sup>。そして各大学の機能強化の方向に応じた取組をきめ細かく支援するため、平成28年度からの国立大学法人運営費交付金のなかに重点的に支援する3つの枠組みを設けた<sup>3)</sup>。3つの重点支援の枠組みは、地域貢献型、優れた教育研究型、卓越した教育研究型である<sup>3)</sup>。地域に位置する大学には教育・研究活動に加え、地域社会にとって価値ある大学としてのより具体的な機能が強く求められている。その機能の一つに、地域社会の様々な課題を解決する地域活性化機関・シンクタンクとしての大学の役割が挙げられる<sup>2)</sup>。筆者らはこれまで、地元自治体（北見市）と北見工業大学との関係を連携体制、北見市の施策における大学の役割、共同研究活動実績や各種委員会活動実績など各種側面から解析し、その結果を報告してきた<sup>4)5)6)</sup>。本報告では、北見市が設置する各種審議会・委員会活動から、北見市と北見工業大学との関係について解析した結果を報告する。

### 2. 解析対象

北見市の各種審議会・委員会等への北見工業大学の参画状況の調査にあたっては、国・地方公共団体等から委員等委嘱依頼を受け、所定の手続きを踏み北見工業大学で記録・管理している平成22年度から30年度の9ヵ年分の情報を対象とした。

### 3. 結果・考察

図1に平成22年から30年度までの北見工業大学が参画している国・地方公共団体別各種審議会・委員会等の件数の経年変化を示す。北見工業大学が参画している国・地方公共団体別各種審議会・委員会等の件数は、平成26年度から28年度にかけて40件から34件へと15%程減少していたが、そのほかは前年度比ほぼ同程度もしくは30%～40%の伸び率で増加していた。北見工業大学が参画する北見市の各種審議会・委員会等への参画総件数は9年間で205件であり、総件数306件の約7割を占めた。9年間における国、北海道、北見市以外の北海道の市町村における各種審議会・委員会等への参画件数の増減は、毎年度前年度と比較し1～2件程度であった。一方、北見市では、平成23年度から24年度にかけて7件、平成29年度から30年度にかけて11件の増加が見られた。平成23年度から24年度にかけては、工学の専門分野に直接関係しない審議会・委員会への参画が増えていた。平成29年度から30年度においても、工学の専門分野に直接関係しない審議会・委員会への参画が増えていると同時に、大学の執行部など、役職者による識者・主査としての委員参画が増えていることが示された。

これらの結果を、社会・地域貢献を担う大学としての機能強化を進める北見工業大学の学内外環境との関係に着目して解析した。

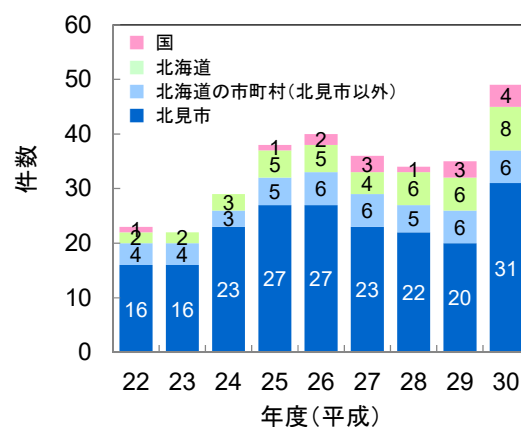


図1. 北見工業大学の国・地方公共団体別各種審議会・委員会等参画件数の経年変化(平成22～30年度、9年間の総件数306件)

1) 文部科学省, 国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて, 2015. 6. 8.

2) 文部科学省, 国立大学改革プラン, 2013. 11.

3) 文部科学省, 第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方について(審議まとめ), 2014. 6. 15.

4) 内島典子, 鞘師守: 「地域振興に貢献する地域と大学との関係(第3報)」, 産学連携学会第7回大会講演予稿集, 2009. 8.

5) 水野朋恵, 内島典子: 「共同研究活動および各種委員会活動から見た北見市と北見工業大学の産学官連携」, 産学連携学会関西・中四国支部第8回研究・事例発表会講演予稿集, 2016. 11.

6) 内島典子, 水野朋恵: 「地域振興に貢献する地域と大学との関係(第6報)」, 産学連携学会第17回大会講演予稿集, 2019. 6.

==== ==== ==== ==== メモ欄 ==== ==== ==== ==== =====